

問1 日本の地形的特徴である「フォッサマグナ」に関する説明として、地質学的な背景を踏まえたものとして最も適切なものを選びなさい。(2018年 静岡公立入試 類似)

1. 日本列島を東西に二分する巨大な溝状の地形で、その西の縁は糸魚川―静岡構造線と呼ばれている。
2. 関東地方から九州地方までを貫く日本最大の断層であり、日本アルプスなどの高山を形成する原因となった。
3. 東北地方の中央を南北に走る脊梁山脈であり、日本海側と太平洋側の気候を分ける境界となっている。
4. シベリア大陸から切り離された日本列島が、太平洋の海洋プレートに押されて隆起してできた広大な台地である。

問2 日本の中央部の地形的特徴について述べた文として、正しいものはどれか。フォッサマグナの位置や境界に着目して選びなさい。(2016年 愛媛公立入試 類似)

1. フォッサマグナの西側の境界は、長野県付近を通過して日本海側と太平洋側を結んでいる。
2. フォッサマグナは東北地方を南北に貫く火山帯の通称であり、福島県がその中心である。
3. 日本列島を地質的に東西に分ける溝の西端は、京都府と兵庫県の間境付近に位置している。
4. フォッサマグナの東側の境界線が糸魚川・静岡構造線と呼ばれ、山梨県から愛知県へ続く。

問3 川が山地から平地に流れ出るところに土砂が堆積してできた扇状の地形を何というか。また、その地形における代表的な土地利用の理由として適切なものはどれか。(2025年 青森県公立入試 類似)

1. 地形名：扇状地 / 理由：水はけが良く、果樹栽培などに適しているから
2. 地形名：扇状地 / 理由：水もちが良く、稲作などに適しているから
3. 地形名：三角州 / 理由：水はけが良く、果樹栽培などに適しているから
4. 地形名：三角州 / 理由：水もちが良く、稲作などに適しているから

問4 夏季に降水量が集中し、冬には乾燥した晴天の日が続く太平洋側の気候（静岡県東伊豆町など）の特徴を説明したものとして適切なものはどれですか。(2018年 京都公立入試 類似)

1. 夏は南東からの湿った季節風や台風の影響で雨が多く、冬は山を越えてきた乾いた風が吹くため
2. 一年を通じて偏西風の影響を受けやすく、どの月も平均的に100mm以上の降水量があるため
3. 冬は日本海からの雲雪が山脈を越えて流れ込むため、一年で最も降水量が多くなるため
4. 赤道付近からの上昇気流が直接流れ込むため、夏と冬で気温の差がほとんど見られないため

問5 滋賀県安土町付近の統計や土地利用を示した地形図において、安土小学校や安土中学校の所在地には、共通して「文」という漢字を丸で囲んだ地図記号が記されています。この記号が示す施設について正しく述べたものはどれですか。(2021年 福島県公立入試 類似)

1. 小学校、中学校、高等学校などの教育機関を指す。
2. 不特定多数が利用する公立の図書館を指す。
3. 地域の福祉を担う老人ホームを指す。
4. 市町村の行政事務を行う役場を指す。

問6 日本列島の中央部を南北に縦断するように位置し、ラテン語で「大きな溝」を意味する名称を持つ、地質学的な境界を含む地域を何と呼びますか。(2023年 鳥取公立入試 類似)

1. 中央構造線
2. フォッサマグナ
3. 日本海溝
4. 火山前線 (火山フロント)

問7 日本の国土面積と人口分布の関係について述べた次の文のうち、正しいものはどれですか。なお、日本の地形面積の割合は山地が約75%、平野（台地と低地）が約25%であるものとします。(2019年 徳島公立入試 類似)

1. 国土の約4分の1を占める限られた平野部に、全人口の約8割が集中して居住している。
2. 国土の約4分の3を占める広大な山地に、全人口の約8割が分散して居住している。
3. 平野と山地の面積比に応じて、人口もそれぞれ約50%ずつ均等に分布している。
4. 居住に適した低地の面積は国土の半分以上を占めており、そこに人口が集中している。

問8 山梨県の笛吹川流域などに見られる扇状地では、古くからブドウやモモなどの果樹園が多く見られる。このように扇状地が果樹栽培に広く利用される理由として、地形の特性から説明したものとして適切なものを選びなさい。(2020年 茨城県公立入試 類似)

1. 砂や礫が堆積しており水はけが良いため、果樹栽培に適している。
2. 土壌が常に湿っており水分が豊富なため、果樹が育ちやすい。
3. 標高が非常に高く、冷涼な気候を好む果樹の栽培に適している。
4. 地形が完全に平坦であり、機械による大規模な果樹管理が容易なため。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 日本列島を東西に二分する巨大な溝状の地形で、その西の縁は糸魚川—静岡構造線と呼ばれている。	フォッサマグナは単なる山脈や断層ではなく、日本列島の中央部に生じた巨大な「溝」のような地形です。その西側の縁（構造線）によって、古い岩石からなる西日本と、比較的新しい岩石が埋まっている東日本の境界が形成されています。一方、選択肢にある「関東から九州まで貫く断層」は中央構造線の説明であり、フォッサマグナとは区別する必要があります。
問2	答え 1 フォッサマグナの西側の境界は、長野県付近を通過して日本海側と太平洋側を結んでいる。	フォッサマグナは本州の中央部を南北に縦断するように存在しており、その西の縁（糸魚川・静岡構造線）は長野県などを通っています。これによって日本列島は地質学的に東側と西側に大きく区分されます。選択肢にある「東北地方」や「近畿地方（京都・兵庫）」にフォッサマグナの境界はありません。
問3	答え 1 地形名：扇状地 / 理由：水はけが良く、果樹栽培などに適しているから	川が山地から平地に出る場所に形成される地形は「扇状地」である。一方、川が海や湖に注ぐ河口付近にできる地形は「三角州」である。扇状地は上流から運ばれた比較的大きな土砂や小石が堆積しているため、水が地面に浸透しやすく「水はけが良い」という特徴を持つ。この環境は根腐れを防ぐ必要がある果樹（ぶどう、ももなど）の栽培に適している。対照的に、水もちが良い土地は水田に適しているが、これは三角州や下流の低地に見られる特徴である。
問4	答え 1 夏は南東からの湿った季節風や台風の影響で雨が多く、冬は山を越えてきた乾いた風が吹くため	太平洋側の地域では、夏は小笠原高気圧から吹き出す湿った南東の季節風の影響を受け、地形性降雨や台風によって降水量が多くなります。一方で冬は、日本海側で雪を降らせて水分を失った季節風が、山脈を越えて乾燥した風（からっ風）として吹き下ろすため、晴天が多く乾燥した気候になります。雨温図では夏季に降水量の山ができ、冬季は極端に少なくなります。
問5	答え 1 小学校、中学校、高等学校などの教育機関を指す。	「文」を丸で囲んだ記号は、特定の学校施設（初等・中等教育機関など）の場所を特定するために使用されます。地形図上では、学校は地域コミュニティの中心や災害時の避難場所に指定されることが多いため、その位置を正確に把握することが重要です。大学については「文」の字のみで丸囲みがない記号や、注記によって区別される場合があります。
問6	答え 2 フォッサマグナ	明治時代にナウマンによって命名されたこの地域は、日本列島を東日本と西日本の地質構造に分ける巨大な溝状の地形を指します。西端の境界は糸魚川静岡構造線と呼ばれ、この溝を新しい時代の地層が埋める形で現在の地形が形成されました。
問7	答え 1 国土の約4分の1を占める限られた平野部に、全人口の約8割が集中して居住している。	日本の国土は山地が全体の約75%を占める山国であり、居住や農耕に適した平地は非常に限られています。そのため、わずかに面積25%程度の平野部に都市や工業地帯が発達し、全人口の約80%が密集して暮らすという極端な人口集中が起こっています。これに対し、面積の広い山地には全人口の約20%しか居住していません。
問8	答え 1 砂や礫が堆積しており水はけが良いため、果樹栽培に適している。	扇状地は粒の大きい砂や礫が堆積してできているため、水が地下に浸透しやすく、地表の水はけが良いという特徴があります。このため、水を多く必要とする水田には不向きであり、水はけの良い土地を好む果樹の栽培が盛んに行われてきました。